

# 小規模企業の景況

(2022年1～3月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)2022年1～3月期の結果概要は以下の通り。今期(2022年1～3月期、調査基準日:3月1日)の業況判断DIは▲34.9、前回調査から9.7ポイント悪化、中小企業の業況判断DIは4期ぶりに悪化に転じた。売上額DI値は▲34.3(前回調査から13.3ポイント悪化)となっており、従業員過不足DI値は▲11.8(前回調査からプラス0.8)となり、4期ぶりに中小企業の人手不足感が弱まった。「経営上の問題点」では、製造業で「原材料価格の上昇」が前回に引き続き1位となり、小売業では「仕入単価の上昇」が第1位に浮上した。

## 1. 今期(2022年1～3月期)の状況

**【売上額】**今期(2022年1～3月期)の売上額DI(全産業)は、前回調査(2021年10～12月期)の(▲21.0)から13.3ポイント悪化し、▲34.3となった。業種別では前回調査から、卸売業が12.5ポイント、小売業が20.1ポイント、サービス業が20.8ポイントそれぞれ悪化し、製造業が0.2ポイント改善した。

**【資金繰り】**今期の資金繰りDI(全産業)は、前回調査(▲16.4)から8.2ポイント悪化し、▲24.6となった。業種別では前回調査から、製造業が3.7ポイント、小売業が12.8ポイント、サービス業が17.1ポイントそれぞれ悪化し、卸売業は3.6ポイント改善した。

**【業況判断】**今期の業況判断DI(全産業)は、前回調査(▲25.2)から9.7ポイント悪化し、▲34.9となった。業種別では前回調査から、製造業が12.8ポイント、卸売業が10.9ポイント、小売業が6.8ポイント、サービス業が8.6ポイントそれぞれ悪化した。

**【従業員数過不足】**今期の従業員数過不足DI(全産業)は、前回調査(▲12.6)から0.8ポイント改善し、▲11.8となった。業種別では前回調査から、製造業が2.8ポイント、卸売業が1.8ポイント、小売業が1.6ポイントそれぞれ改善し、サービス業が2.5ポイント悪化した。

## 2. 来期(2022年4～6月期)の予想

来期(2022年4～6月期)の全産業の予想DIは、売上額▲17.0、資金繰り▲20.1、業況判断▲20.1となった。

## 3. 経営上の問題点

製造業で「原材料価格の上昇」、卸売業・サービス業で「需要の停滞」、小売業で「仕入単価の上昇」が第1位となった。

※DI値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(2021年1～3月期)と比較して売上額、業況判断、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

## 【調査の概要】

- ・調査名：第167回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
  - ・調査時期：2022年2月16日～3月1日（前回：2021年11月1日～11月15日）
  - ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
  - ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
    - ※ 全国7,954件中、大阪商工会議所分324件。
    - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）289件について取りまとめた。
- 〔製造業77件、卸売業62件、小売業68件、サービス業82件〕

## ■DI推移（全産業）

	164回調査	165回調査	166回調査 (前回)		167回調査 (今回)	
	2021年(R3) 4～6月期	2021年(R3) 7～9月期	2021年(R3) 10～12月期	2022年(R4) 1～3月期	2022年(R4) 1～3月期	2022年(R4) 4～6月期
売上額（増-減）	-23.5	-29.6	-21.0	-4.5	-34.3	-17.0
資金繰り（好-悪）	-21.1	-21.3	-16.4	-13.6	-24.6	-20.1
業況（好-悪）	-35.4	-29.3	-25.2	-10.1	-34.9	-20.1
従業員（過-不）	-5.6	-9.1	-12.6		-11.8	

## ■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	原材料価格の上昇 →	26 (21)	需要の停滞 →	21 (23)	仕入単価の上昇 ↑ その他（コロナ禍による消費の 落込み等） ↑	10 (8) 10 (8)	需要の停滞 →	13 (15)
2位	需要の停滞 →	20 (16)	仕入単価の上昇 →	20 (18)			その他（コロナの影響による売上減少等） ↑	12 (8)
3位	原材料の不足 ↑	7 (4)	販売単価の低下・上昇難 →	4 (4)	消費者ニーズへの変化への対応 ↓ 需要の停滞 ↓	9 (12) 9 (8)	利用者ニーズの変化への対応 ↓ 熟練従業員の確保難 ↑ 人件費の増加 ↑	7 (15) 7 (6) 7 (4)

[注]（ ）内は前回（2021年10～12月期）調査結果

↑ = 前回より高順位

→ = 前回と同順位

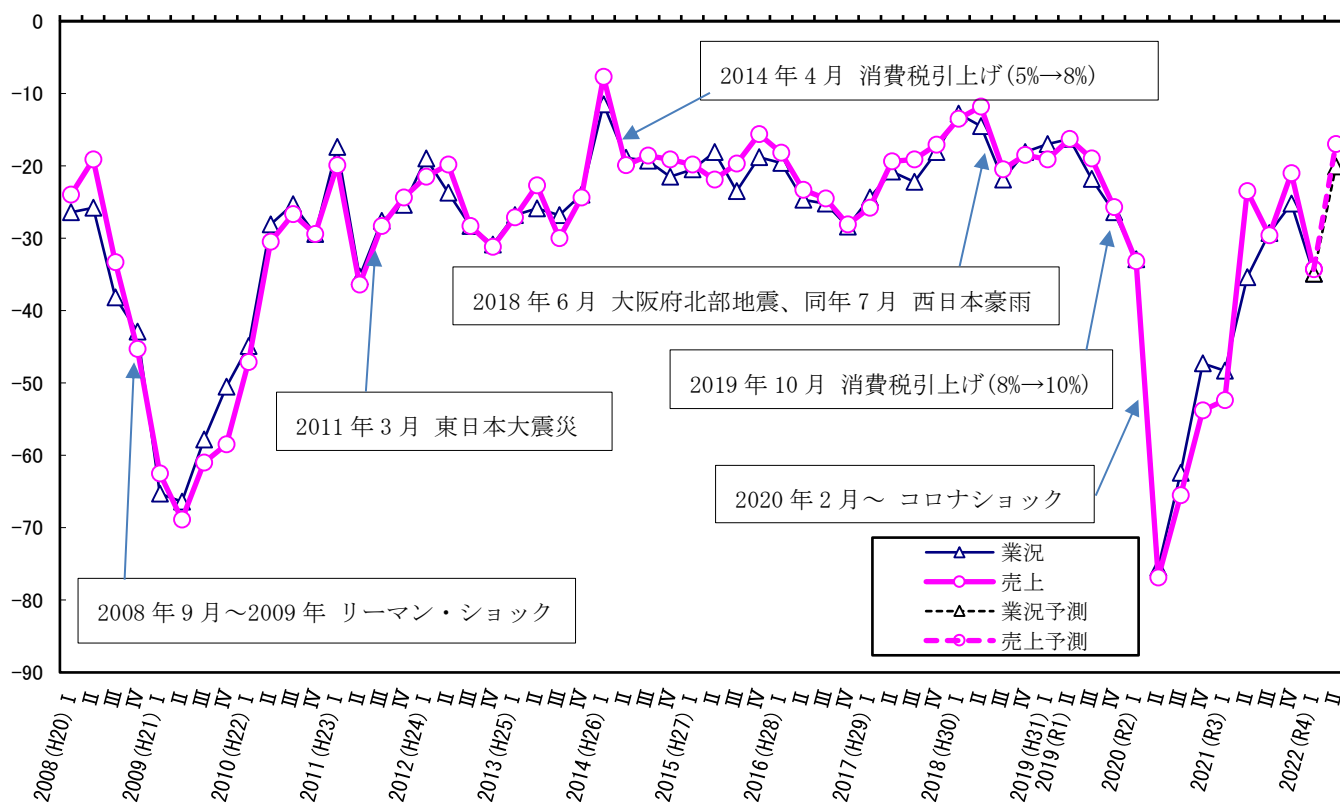
↓ = 前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(1~3月期)				前回(10~12月期)からの推移	来期の予想(4~6月期)			
		増加	不変	減少	増一減		増加	不変	減少	増一減
売上額										
	製造業	22.1	36.4	40.3	▲ 18.2	0.2	22.1	40.3	36.4	▲ 14.3
	卸売業	12.9	35.5	51.6	▲ 38.7	▲ 12.5	24.2	27.4	48.4	▲ 24.2
	小売業	10.3	25.0	64.7	▲ 54.4	▲ 20.1	22.1	38.2	39.7	▲ 17.6
	サービス業	19.5	31.7	48.8	▲ 29.3	▲ 20.8	22.0	41.5	35.4	▲ 13.4
	合計	16.6	32.2	50.9	▲ 34.3	▲ 13.3	22.5	37.4	39.4	▲ 17.0
	前回	21.0	36.7	42.0	▲ 21.0		25.9	43.0	30.4	▲ 4.5
資金繰り		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	3.9	71.4	22.1	▲ 18.2	▲ 3.7	6.5	68.8	22.1	▲ 15.6
	卸売業	4.8	74.2	21.0	▲ 16.1	3.6	4.8	75.8	19.4	▲ 14.5
	小売業	4.4	51.5	44.1	▲ 39.7	▲ 12.8	7.4	54.4	36.8	▲ 29.4
	サービス業	4.9	64.6	29.3	▲ 24.4	▲ 17.1	6.1	65.9	26.8	▲ 20.7
	合計	4.5	65.4	29.1	▲ 24.6	▲ 8.2	6.2	66.1	26.3	▲ 20.1
	前回	6.6	69.6	23.1	▲ 16.4		8.4	67.8	22.0	▲ 13.6
業況		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	14.3	40.3	45.5	▲ 31.2	▲ 12.8	14.3	48.1	33.8	▲ 19.5
	卸売業	14.5	37.1	48.4	▲ 33.9	▲ 10.9	17.7	37.1	40.3	▲ 22.6
	小売業	10.3	29.4	57.4	▲ 47.1	▲ 6.8	16.2	41.2	38.2	▲ 22.1
	サービス業	12.2	43.9	41.5	▲ 29.3	▲ 8.6	11.0	53.7	28.0	▲ 17.1
	合計	12.8	38.1	47.8	▲ 34.9	▲ 9.7	14.5	45.7	34.6	▲ 20.1
	前回	14.7	44.8	39.9	▲ 25.2		17.8	49.3	28.0	▲ 10.1
従業員		過剰	適正	不足	過一不					
	製造業	6.5	72.7	16.9	▲ 10.4	2.8				
	卸売業	3.2	85.5	8.1	▲ 4.8	1.8				
	小売業	2.9	75.0	10.3	▲ 7.4	1.6				
	サービス業	3.7	68.3	25.6	▲ 22.0	▲ 2.5				
	合計	4.2	74.7	15.9	▲ 11.8	0.8				
	前回	3.5	74.5	16.1	▲ 12.6					

「今期の状況（除従業員）」は2022年1~3月期状況であり、前年同期の2021年1~3月期との比較。来期の予想は2022年4~6月期予想であり、2021年4~6月期との比較である。「前回」欄は2021年10~12月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値＝D I（増加・好転－減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※2022年 II 予想値